

# バレル再生 第3の柱に

## ステア・ジャパン 印工場加工

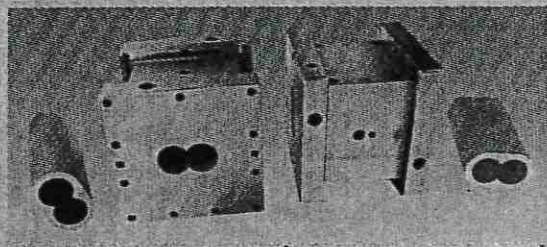
### 2軸混練押出機

インドの2軸混練押出機大手メーカー、ステア・エンジニアリング（バンガロール）の日本法人、ステア・ジャパン（東京都千代田区神田）は、2軸混練押出機の消耗部品のバレル（シリンダー）を再生する新規ビジネスに乗り出す。顧客である樹脂コンパウダーの使用済みバレルを印工場に持ち込み、切削加工し新品と同様に再生する。同社はリペア事業をライフサイクルビジネスとして、従来の装置販売、スクリーエレクト交換に次ぐ第3の柱に育成する。

印ステア・エンジンは2軸混練押出機の世界的大手メーカー。インド、中国、日本、米国などに販売子会社があり、樹脂コンパウダーに装置を提供している。装置の製作に加え、インドのコインバトール工場には製造工場を保有し、スクリー

エレメント、各種バレルを自社で生産できることが強み。ステア・ジャパンはすでに約200社の樹脂混練企業に対し2軸混練押出機や消耗品であるスクリーエレメントなどを提供している。今回、スクリーエレメントとセ

ットで使用するバレルを新品と同様に再生するビジネスを始める。樹脂コンパウダーは、原料メーカーや樹脂加工メーカーから原料ベレットに顔料、ガラス繊維、タルク、添加剤などを混練する受託加工業務を手がけている。混練工



程は、バレル内のスクリーエレメントに樹脂を流し込み、回転によって樹脂と顔料や添加物を混

バレルの中心部を切削加工でくり抜く。そこに新品のライナー（右と左）をはめ込み、バレルを廃棄せず新品同様に再生する

練する。ガラス繊維を樹脂に混練するとスクリーエレメントやバレルが激しく消耗するため定期的に交換する必要がある。しかし、使用済み各種バレル部品を毎回、新品に交換するとランニングコストが上昇する。同社は使用済みバレルを廃棄せず、インドのコインバ

トール工場に持ち込み、消耗部分の中心部を切削し穴を開ける。そこに新品のライナーを挿入し新品同様に再生、顧客に返却する。顧客ではリペア費用がかかるものの、使用済みバレルの全面交換と比べれば低コストですむ。また同社製品に限らず、他社製の2軸混練押出機で使用したバレルもリペアに対応する。バレルのリペア時期は顧客が使用する樹脂の種類、添加剤の量、生産数量により大きく変化しますが、最適なタイミングでリペア作業を提案する考え。2軸混練押出機の市場は樹脂コンパウダーや原料メーカー向けなどで安定した需要があるものの景気動向を強く受ける。一方、消耗部品を中心としたライフサイクルビジネスは安定した需要がある。同社は装置販売、スクリーエレメント交換に次ぐ第3のビジネス

として事業基盤を固めていく。